

令和5年度 松戸市立常盤平中学校 学習の指針(シラバス)

教科	家庭科	学年	1年
----	-----	----	----

1 学習の目的

■生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

2 学習計画

	学習内容	学習のねらい
1 学期	家庭分野のガイダンス	・小学校家庭科の学習をふり返るとともに、3 学年間の学習内容の見通しをもつ。
	A 家族・家庭生活 1 自分の成長と家族・家庭生活 2 家庭生活と地域の関わり 3 持続可能な家庭生活 B 衣食住の生活 衣生活 1 目的に応じた衣生活の選択と手入れ 2 日常着の手入れと保管 3 生活を豊かにするものの製作 4 持続可能な衣生活 生活の課題と実践	・自分の成長と家族や家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能について理解する。 ・家族生活は、地域との相互のかかわりで成り立っていることを理解する。 ・誰もが尊重される家庭・地域の生活をめざして課題をみつけ、実践的に取り組む。 ・衣服と社会生活の関わりや、目的に応じた着用、個性をいかす着用および衣服の適切な選択について理解する。 ・衣服の選択や衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を理解し、適切にできる。 ・製作の計画を立て、手縫いやミシン縫いで生活を豊かにするものをつくる。 ・資源や環境に配慮した衣生活をおくるために工夫できることを考える。 ・既習の内容から課題を設定し、解決に向けて計画を立て実践できる。
2 学期	B 衣食住の生活 住生活 1 住まいのはたらきとこちよさ 2 安全な住まいと安心な暮らし 3 持続可能な住生活	・家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能について理解する。 ・家庭内の事故の防ぎ方など家庭の安全を考えた住空間の整え方について理解する。 ・持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることを知る。

3 評価

項目	評価の内容	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家族の機能、自分と家族の関わり、地域との関わりについて理解することができる。 ・衣生活や住生活について理解し、それに係る技能を身につけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・ワーク ・作品
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに工程やデザインを工夫し、小物を製作することができる。 ・家庭生活や衣生活、住生活に関わることから課題を見つけ、解決策を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・作品 ・レポート
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の選択や手入れ、製作などについて、工夫し、実践しようとしている。 ・家族や地域の人々との協働について考え、工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決への取り組み ・プリント ・レポート ・自己評価や相互評価

4 「確かな学力」のためのアドバイス

<p>1. 家庭科の学習について</p> <p>週2時間、前期のみ学習します(後期は技術科を学習します)。家庭と家庭生活では、自分の成長と、家族や家庭生活との関わり、家族や地域のとの関わりについて学びます。衣生活では、縫製での製作を通して、日常生活に必要な衣生活の知識や修繕の技能を学びます。ひとつひとつの作業を正しくいねいに取り組みましょう。また、準備や片付けも含めて、効率よく作業ができるよう工夫しましょう。住生活では、安全な住まいの整え方について学びます。毎時間を大切に使いましょう。</p> <p>2. 授業のきまり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1度しかないので、提出物や持ち物などしっかり確認し、忘れ物がないようにしましょう。 ・忘れ物をした場合は必ずチャイムが鳴る前に申告しましょう。 ・針やミシン、はさみなどを扱う場合は周囲に注意を払いましょう。 <p>※学年評定は、3学期末に技術科と合わせて技術・家庭として評価します。</p> <p>3. 授業で使う道具</p> <p>教科書、ワーク、ファイルは必ず用意します。活動場所やその他の持ち物は教科係が確認します。学習内容によりタブレットPC、裁縫箱などを使用する場合があります。</p> <p>4. 授業中の少人数学習</p> <p>ミシン等の実技は少人数班で行います。また、座学ではグループで話し合い活動を行うことがあります。</p> <p>5. 家庭学習</p> <p>授業内で終わらなかった課題は宿題になります。紛失・忘れ物防止のためにも授業に集中して取り組み、時間内で終わられるようにしましょう。夏休みに家事手伝いなどの課題が出る場合があります。</p>
--

令和5年度 松戸市立常盤平中学校 学習の指針(シラバス)

教科	家庭科	学年	2年
----	-----	----	----

1 学習の目的

■生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

2 学習計画

	学習内容	学習のねらい
2 学 期	B 衣食住の生活 1 食事の役割と食習慣	・食事の役割について理解し、毎日の食事に関心をもつ。
	2 中学生に必要な栄養を満たす食事	・食品は栄養的特質により食品群に分類されることを理解する。
	3 さまざまな食品とその選択	・中学生に必要な栄養の特徴がわかる。 ・生鮮食品や加工食品の特徴を理解し、選び方がわかる。 ・食品にふさわしい保存の理由と仕方がわかる。 ・情報を正確に読み取り、自分で判断できる。
	4 日常食の調理	・調理の流れと手順がわかり、計画を立てることができる。 ・安全や衛生に注意し、火・包丁・まな板・計量器具の使い方がわかる。 ・肉や魚、野菜の調理上の性質がわかり、調理できる。
3 学 期	5 地域の食文化	・地域で生産される食材の調理を通して、地域の食文化を理解する。 ・日本の行事食について知り、行事食を生活に生かすことができる。 ・環境と日本の食糧事情に配慮し、食生活を工夫することができる。
	6 献立づくり	・中学生が1日にとりたい食品と分量を知る。 ・中学生が1日に必要な栄養を考え、献立を立てることができる。
	7 持続可能な食生活	・持続可能な食生活を送るために食生活を工夫することができる。

3 評価

項目	評価の内容	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の食生活や栄養の特徴・食品などの基本的な知識を身につけることができる。 ・調理実習の方法を理解し、正しく実習することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・ワーク ・作品
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・調理に必要な手順や時間を考え、工夫することができる。 ・より良い食生活のために、課題をみつけ、解決策を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・作品 ・レポート
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の食生活や栄養の特徴・食品に広く関心を持ち、食生活の課題について改善しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク ・プリント ・レポート ・自己評価や相互評価

4 「確かな学力」のためのアドバイス

<p>1. 家庭科の学習について</p> <p>週2時間、後期のみ学習します。主にバランスの良い食生活や基礎的な調理について学びます。これらの知識は、健康に生きていくために不可欠です。少しでも多くの知識を得ることと、実際に体験してみることで得られることを大切にしてほしいと思います。</p> <p>2. 授業のきまり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1度しかないため、提出物や持ち物などしっかり確認し、忘れ物がないようにしましょう。 ・忘れ物をした場合は必ずチャイムが鳴る前に申告しましょう。 ・ガス台や、包丁、ピーラーなどを扱う場合は周囲に注意を払いましょう。 <p>※学年評定は、3学期末に技術科と合わせて技術・家庭として評価します。</p> <p>3. 授業で使う道具</p> <p>教科書、ワーク、ファイルは必ず用意します。活動場所やその他の持ち物は教科係が確認します。学習内容によりタブレットPC、三角巾、エプロン、スーパーの広告などを使用する場合があります。</p> <p>4. 授業中の少人数学習</p> <p>調理実習等の実技は少人数班で行います。また、座学ではグループで話し合い活動を行うことがあります。</p> <p>5. 家庭学習</p> <p>授業内で終わらなかった課題は宿題になります。紛失・忘れ物防止のためにも授業に集中して取り組み、時間内で終わられるようにしましょう。</p> <p>冬休みに家事手伝いや調理の課題が出る場合があります。</p>
--

令和5年度 松戸市立常盤平中学校 学習の指針(シラバス)

教科	家庭科	学年	3年
----	-----	----	----

1 学習の目的

■生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

2 学習計画

	学習内容	学習のねらい
1 学 期	A 家族・家庭生活 1 自分の成長と家族・家庭生活 2 家庭生活と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と家族や家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能について理解する。 ・家族や地域の人々と協力・協働して家族生活を営む必要があることに気付く。 ・家庭生活は、地域との相互のかかわりで成り立っていることを理解する。
2 学 期	3 幼児の生活と家族 4 幼児とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の幼児期を振り返り、幼児期への関心をもつ。 ・幼児の心身の発達の特徴を理解する。 ・子どもが育つ環境としての家族や周囲のおとなの役割について理解する。 ・幼児にとって遊びは生活そのものであり、十分な遊びを経験できる環境が重要であることを理解する。 ・身につけた基礎的・基本的な知識を活用し、工夫して幼児が喜ぶ絵本やおもちゃの製作をする。 ・幼児とのふれ合い体験について自分の課題をもち、ふれ合うときの留意点を理解する。 ・ふれ合い体験や製作を通し、感じたことや考えたことを話し合い、幼児への理解を深める。
3 学 期	5 持続可能な家庭生活 3 年間を振り返って	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが尊重される家庭・地域の生活をめざして、課題をみつけ、実践的に取り組む。 ・家庭分野で学習したことを振り返り、今後の生活でのいかし方を考える。

3 評価

項目	評価の内容	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家族の機能、自分と家族の関わり、地域との関わりについて理解することができる。 ・幼児の心身の発達について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・ワーク ・作品
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に関わることから課題を見つけ、解決策を考えることができる。 ・幼児との関わり方について身につけた知識を活用し、工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・作品 ・レポート
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活や幼児との関わり方について課題を見出し解決しようとしている。 ・家庭分野で学習したことをこれからの生活に生かそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク ・プリント ・レポート ・自己評価や相互評価

4 「確かな学力」のためのアドバイス

1. 家庭科の学習について

技術家庭科は週に1時間、技術科と家庭科の授業が交互にあります。主に家族の役割や幼児の発達過程について学びます。自分自身の成長を振り返るとともに、幼児の心身の発達や特徴を学び、寛容な社会をつくる一員としてかわり方を考えてほしいと思います。
2. 授業のきまり
 - ・2週間に1度しかないため、提出物や持ち物などしっかり確認し、忘れ物がないようにしましょう。
 - ・忘れ物をした場合は必ずチャイムが鳴る前に申告しましょう。

※通年で、技術科と家庭科の隔週授業となるため、評価評定を技術科と合わせて、「前期・後期」の2度算出します。
3. 授業で使う道具

教科書、ワーク、ファイルは必ず用意します。活動場所やその他の持ち物は教科係が確認します。学習内容によりタブレットPC、色鉛筆、画用紙などを使用する場合があります。
4. 授業中の少人数学習

製作等は少人数班で行います。また、座学ではグループで話し合い活動を行うことがあります。
5. 家庭学習

授業内で終わらなかった課題は宿題になります。紛失・忘れ物防止のためにも授業に集中して取り組み、時間内で終わられるようにしましょう。出生体重など母子手帳を確認する課題があります。